

この物語は、現在、生きることに様々な苦しみを持たれる方々に読んで戴きたいの思
いから、10年余りの歳月を掛けて書き上げたものです。

本文の前書きにも書いているとおり、最初は幼かった娘を寝かしつける際に語り始めた
物語だったのですが、途中、「この物語を完成させて聞かせてあげるから待っていてね：
…」と言って待たせた娘は、高校生になりました。

24才で画家を志し、40才でクレヨン画家として独立し、その後10数年、年10回
ほどの個展を開きながら画家としてなんとか生計を立てておりましたが、食べて行けなく
なってからは、アルバイト生活を続けながら、早朝の時間に本文を書き進めて参りました。
不思議なもので、アルバイト生活に生じる心の葛藤は、まるで本文の内容に重なるよう
なかたちで進んで行きました。

「生きる」とは、実に苦しみに満ちあふれたものに感じられます。しかしこの苦しみは、
その裏に、自分の識らない美しい姿を隠し持っているに違いない……、
そう信じて生きることはきっとできるはずです——

この物語は、そのような方々へ贈りたい、心からのエールです。